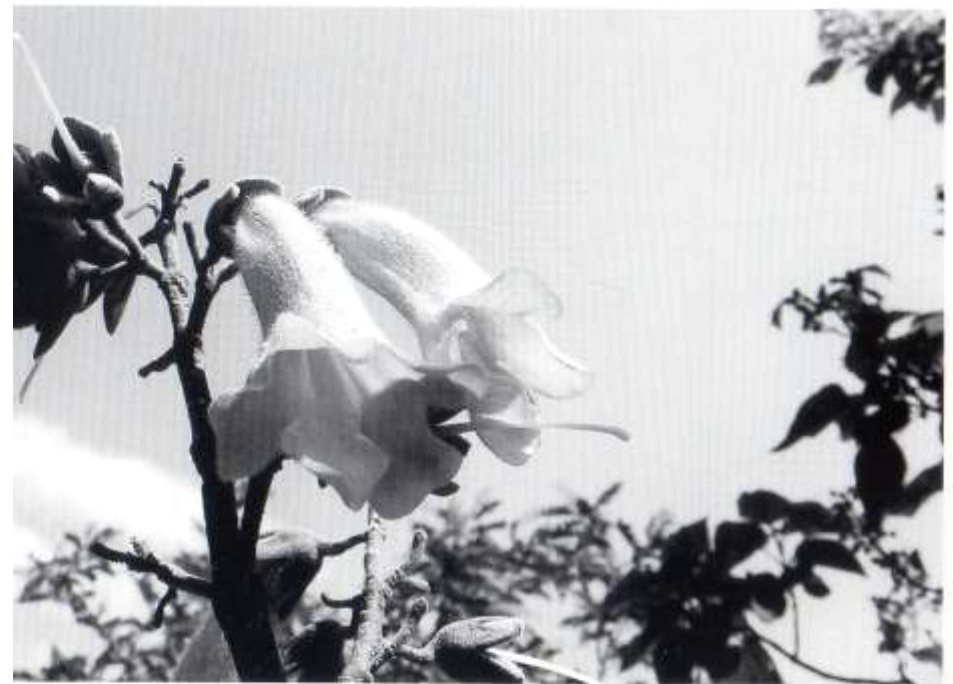


川柳 さいたま

平成27年度 美江賞発表号



平成28年
5月号 (No.678)

日川協加盟

巻頭言

喫煙とくつこ

願法みつる

二月、北朝鮮から、目的はナンデあれロケットが打ち上げられ、ご満悦の第一書記の写真が多く報道された。その映像の中に、理系バカとしては、信じられないショットを認めた。ロケット組み立て関連施設や発射施設を視察中の総書記が、常にタバコを手にはしているのだ。凡そこれら施設では、近代的感覚では絶対禁煙であるべきで、彼以外の軍人や作業員が、それらの場所で喫煙するなどと言うことは、全く考えられない。彼の独裁者振りが良く判る。彼の父親時代にもその様な場面はない。喫煙が好きだった権力者の映像を思い浮かべてみる。吉田茂・田中角栄・チャーチル・毛沢東など。彼らはそれぞれ別の国で、一時代を担いかつ歴史を発展させた人物である。彼らは今の北朝鮮におけるような専横的独裁者ではなかったが、国家を統べる過程での、苦渋・苦悩の中で、喫煙が不可欠だったのだろうか。近年こそ禁煙が普遍化しているとはいえ、かつての時代、喫煙にはまり込んだ方が多かっただろう。喫煙は原始の頃からの習慣でもある。喫煙がもたらす効能を全く否定することはできない。現代に社会問題化している麻薬類に比べれば、まだ救われる。第一書記が喫煙を止めたとき、世界が変わるかも知れない・・などは、サラ川のお巫山戯でしかないか。

日日は好

願法みつる

権力を善用出来る人は神
国盗りへ神は無言で賽を投げ
嘘以外なら神様は呑んで呉れ
池の鯉十二海里を主張する
胸元へあと一言の五寸釘
限りなく黒にも見える白い鳩
潮の風緑の風を知らぬ街
野良仕事蟻や小鳥と握り飯
晩生のふたりに丸い窓の月